

3月例会『桜色の風が咲く』

世界で初めて盲ろう者の大学教授となった福島智さんと母・令子さんの実話を基に描いた人間ドラマ
例会(鑑賞会)は3月22日(金)、総会は4月20日(土)

梅の花も満開になり、少しずつ春らしくなってきました。みなさんお元気ですか。

さて、2023年度全国映連ベストテン(日本映画)『福田村事件』『怪物』『君たちはどう生きるか』『PERFECT DAYS』『ゴジラ-1.0』『市子』『こんにちは母さん』『銀河鉄道の父』『窓際のトットちゃん』、(外国映画)『パリタクシー』『モリコーネ-映画が恋した音楽家』『SHE SAID』『ミッション:インポッシブル デッドレコニング』『生きる LIVING』『丘の上の本屋さん』『キラーズ・オブ・ザ・フラワームーン』『あしたの少女』『イニシエリン島の精霊』『フェイブルマンズ』『TAR/ター』でした。みなさんはいくつご覧になったでしょうか。

3月から始まった『52ヘルツのクジラたち』(成島出監督)は、児童虐待・ヤングケアラー・DV・愛や性のあり方など難しいテーマが絡み合い、心痛む内容でしたが、希望を見い出そうとする姿が描かれていました。例会作品にするには、150分という高いハードルがあるのですが、時間のある方ご覧ください。役所広司さん主演の『PERFECT DAYS』もおすすめです。(イオンシネマ加古川で上映していました)

3月例会『桜色の風が咲く』は、一般オープン(会員だけでなく一般の方も有料で鑑賞できるオープン形式の特別例会)です。たくさんの方に見ていただきたい作品です。お友達誘って参加くださいね。

例会のお知らせ

■名称/第128回例会『桜色の風が咲く』

■日時/2024年3月22日(金) ①AM10:30~、
②PM2:00~、③PM4:20~、④PM6:40~

■場所/加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■後援/加古川市教育委員会

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。今回は、特別例会のため一般の方は有料で鑑賞することができます。

【例会作品データ】

■タイトル/『桜色の風が咲く』

■監督/松本准平

■出演/小雪、田中偉登、吉沢悠、吉田美佳子、山崎竜太郎、札内幸太、井上肇、朝倉あき、リリー・フランキー

■データ/2022年、日本、113分

■ジャンル/ヒューマンドラマ

■解説/見えない。聞こえない。でも僕は“考える”ことができる——。

母と息子が見出していく希望に満ちた未来。

教師の夫、三人の息子とともに関西の町で暮らす令子。末っ子の智は幼少時に視力を失いながらも、家族の愛に包まれて天真爛漫に育つ。やがて令子の心配をよそに東京の盲学校で高校生活を謳歌。だが18歳のときに聴力も失う……。暗闇と無音の宇宙空間に放り出されたような孤独にある息子に立ち上がるきっかけを与えたのは、令子が彼との日常から見出した、“指文字”という新たなコミュニケーションの“手段”だった。勇気をもって困難を乗り越えていく母子の行く手には、希望に満ちた未来が広がっていく……。(作品ホームページから)

定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2024年度の定例総会を開催します。1年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまに、出席くださるようお願いいたします。

1 名称 2024年度加古川シネマクラブ定例総会

2 日時 4月20日(土)午後4時から

3 場所 加古川珈琲(粟津マックスバリュ前)

4 内容 (1) 2023年度事業報告に関する事
(2) 2023年度決算報告に関する事
(3) 2024年度役員を選任に関する事
(4) 2024年度事業計画に関する事
(5) 2024年度予算に関する事

5 議案 現在準備中です。事前に確認できるよう4月13日頃から20日まで加古川シネマクラブのホームページ上に掲載します。



小説
9歳で失明、18歳で聴力を失いながらも世界ではじめて盲ろう者の大学教授となった東京大学先端科学技術研究センター教授 福島智の生い立ちを描いた実話

- 6 参加方法 直接会場にお集まりください。
- 7 その他 当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することで、出席する会員に議決等を委任できます。

私の映画KAN『キネマの神様』

映画『キネマの神様』の原作本(原田マハ著)を読みました。図書館の棚には、この本に並んで『キネマの神様ディレクターズカット』という本がありました。「ん？」なぜ2冊?読んでみるとわかりました。原作本→映画→映画を元にした小説だったのです。

映画をこよなく愛する登場人物たちの名言が満載でした。抜粋します。

映画はな、ほんとは誰が主演かで観るもんじゃない。監督で観るものだ。なぜって、映画っていうのは監督のものだから。しんどいことがいっぱいあるだろうけど、それが人生ってものだ。人生は映画じゃない。都合よくカットはかからないんだ。でもだからこそ、人生に映画があるんじゃないか。ままたまならない人生をどうにかこうにか生き延びるために、人は映画を観に行くんだ。映画の中に、自分がそう生きるはずだったかもしれないもうひとつの人生をさがしに。

「硫黄島からの手紙」についても記述がありました。

この映画は「大きな戦争」の映画ではなく、「小さな平和」の映画ではないか?実は殺し殺されるものたちが、それぞれの家族が無言で願っていた平和こそが、真の主役ではないだろうか。

映画をそんな奥深く観たことはありませんでした。また、この本では「見る」ではなく「観る」とあります。そうか、観察する、判断するという心もいるんだと思いました。

物語の中に「テアトル銀幕」という名画座が登場します。ロードショーで上映し終わった映画や往年の名画のリバイバルをしてくれます。おお~まさしくシネマクラブみたい、と思ってしまいました。

以前シネマクラブに知り合いを誘った時、エンドロールが流れる時も皆さんが座っていたので、いいサークルだと思ったと言ってくれました。この本にも書いてありました。テアトル銀幕のオーナーは、場内にふっと明かりが点るようにしています。お客さんが明かりの点った後、どんな現実が待ち受けていても、どうにかなるだろう、と顔をあげて劇場を後にできるように。

新聞の下欄の広告に『おかえりキネマの神様』という新刊が紹介されていました。内容は『キネマの神様ディレクターズカット』と同じようです。それだけ売れているということですね。映画も見たし本も読んだので、二重に得した気分です。(有馬)

前回の例会報告

1月25日(木)の1月例会では、女性初のプロ野球選手の夢を諦めず努力を重ねていく韓国映画『野球少女』を鑑賞しました。会員83名の参加 新入会員1名 明石シネマクラブ会員11名でした。

36名の感想が寄せられ、野球人気、スポーツドラマのワクワク感、さやかな主人公(『梨泰院クラス』で好演のイ・ジュヨン)への好感など、好評のご意見ばかりでした。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/第82回例会『ゴヤの名画と優しい泥棒』

(2020年、イギリス、95分)

■監督/ロジャー・ミッシェル

■出演者/ジム・ブロードベント、ヘレン・ミレン、ミフィオン・ホワイトヘッド、アンナ・マックスウェル・マーティン

■ジャンル/ドラマ、コメディ

■ストーリー/1961年、“世界屈指の美の殿堂ロンドン・ナショナル・ギャラリー”から、

ゴヤの名画「ウェリントン公爵」が盗まれた。この前代未聞の重大事件の犯人は、60のタクシー運転手ケンプトン・バントン。孤独な高齢者が、TVに社会との繋がりを求めていた時代。彼らの生活を少しでも楽にしようと、盗んだ絵画の身代金で公共放送

(BBC)の受信料を肩代わりしようと企てたのだ。しかし、事件にはもう一つの隠された真相が……。

■日時/4月18日(木)①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所/アスパア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/

※ファクシミリ番号が変わっています。

会員数 122 人(1月25日現在)

